67

秀人

若しも私（こゝでは完全にたった一人の私だ、
幼少記者でない私だ）が、私自身を持つことが
出来るならば百千もの声が一時に響いて来る。
ラッシュ、アワーの雑踏の中から呼び響いて来
る。（たとへば夜半カッフェーの隅おどで、
——一切の学問と、倫理と、趣味とを抛棄
せよ、それは傍観的態度だ。
——自ら持たない物を他に與えよ。持た
ないから與えるのだ。持ってゐるものを與え
るな、社会観の一端をひっぱれ。

——切合を度外視にかけよ、一切を假設せよ。
——鑑賞ではない、言葉だ。冥想ではない、
事件だ。陸ではない、ドラマだ。
私達幼少記者ではない、お爺さん達と言つ
てゐるのだ。時代を言識すれば言識するほ
ど、工業藝術の功績に遅れて行く自身ジョ
ンズのやうに、いつもラッシュ、アワーに遅は
れる。そのテンポは一刻一刻に激しくなって
行くのである。私達幼少記者が製造する私達
が製造するのではない、お爺さん達が製造す

B 10 20 青山 三河屋紙店製